

研究会報告要旨（2024年1月24日開催）

藤田幸一「 Bangladesh の経済発展と労働市場の変化—農村女子就業を中心に—」

農業実質賃金が 2000 年代半ばから急速に上昇し 7 年で 1.8 倍に達し、その後もその水準を維持したこと、また女子労働参加率が 1980 年代前半の 8% から 2010 年代には 35% 前後まで上昇したという 2 つの注目すべき事実を踏まえ、1980 年代から 2010 年代の最近まで、最貧国 Bangladesh で何が起こったのか、特に農村女性の就業構造の変化に焦点を当てつつ論じた。 Bangladesh の経済成長が、縫製業や中東海外出稼ぎとともに、農業、特に主穀の稲作の発展とその経済全体への波及効果によって主導されてきたとする仮説を提示し、そういうなかで、屋敷地内で農村女性が従事してきた生業活動（精米、家畜の世話、野菜・果物の生産など）が活性化し、現金所得をもたらしたことから「就業」と認められ、それが労働力参加率上昇の主因であったこと、しかし 2010 年代になると圃場での農作業にムスリム女性が参加するという動き、また都市部では高い教育を受けた女性の縫製業以外のサービス業への就業の増加など、新しい動きがみられることを明らかにした。